

# 夏期講習だより

## 第3号

文責 竹村 港 (南箕輪小学校)

### 6月4日(火) 第2回 夏期講習事前読み合わせ会報告

第2回読み合わせ 令和6年6月4日(火)

読み合わせ範囲 「西田哲学選集」第一巻 「西田幾多郎による西田哲学入門」 第二部 「善の研究」  
第二編 「实在」 第一章 「考究の出立点」

第二章 「意識現象が唯一の实在である」

司会者： 柄澤 武志 先生 (南部小学校)

レポーター： 大口 琢弥 先生 (辰野中学校)

#### 【レポーター発表 大口 琢弥 先生】

##### ① 考究とは

知識と情意のつながりについて考えることは普段からあるが、今回第一章を読んで、意識があるから認識があるという点が勉強になった。普段生活している中で自分が意識していないことがあるという点にも気づき、これも勉強になった。また、「哲学って何だろう。なんでやるんだろう」と考えることも面白いと思った。そして、「何もないということは何も生じないということではない」というところ、なるほどと思ったし、衝撃だった。

##### ② 考究について考えてみる

事実とは何か考えるにあたって、意識することで事実になるということは確かにあるなと思った。私自身、確かに意識は日々変化しているし、因果律を求めてしまっている。専門とする英語に対しての意識も変化していく。さらにその意識は自分の専門によって変わってくると思う。そしてその意識は自分の視点を広げてくれると思う。また、現象の繰り返しが結果を作っていくのだとすると、勉強することは改めて大事だと思った。

##### ③ 日々の生活を元に

子どもの頃の方が意識していたものがたくさんあることに気づいた。(レポートに、子どもの頃お月さんが私を追いかけてくると言っていたと書いたが、)今では月を見ても何も思わない。しかし今回の第一章、第二章を読んで、その感覚を取り戻すことができたように思う。また、(普段の子どもたちとのやり取りなどを思い出すと、)仕事は哲学だと思った。

##### ④ レポートをまとめた感想

日々の忙しさの中では、視野が広がることはなかなかないと感じる。これまで視点が凝り固まっていたと思った。日々の自分を振り返ったり、日々の生活のことを考えることが大切だと気づいたりして、今回のレポート作成を機に多くのことを学べた。新しい視点をもって生活することができそうだ。

## 【グループ討議のまとめ】

### ◎Aグループ

意識は体の外にあるという言葉について、前回聞いた「世界が自分に向かってくる」という言葉とリンクさせて考えた。体の役割は向かってくる世界を受け入れるもの、センサーではないかと考えた。また、因果律について、これは一方向的なものではなく、広がりをもっているのだというイメージが変わった。

### ◎Bグループ

考えることは面白いことだという大口先生の考えに共感した。グループ内で「今回も内容の理解が難しい」という話をしたが、普段も正解が分からない中でやっていると気づいた。また、今回の読み合わせ部分には思惟という言葉がたくさん出てくるが、自分たちの中では意味がまだ明確ではない。

### ◎Cグループ

子どもは純粋で、自分（教師）の常識とは異なる目でものを見ている。子どもをあだこうだと決めつけるのは良くないと思った。また、今回の登場した「真実在」という言葉について、それは何か考えていきたい。

### ◎Dグループ

大人になるにつれてなくなってきてしまった気づきがあることが分かった。大人は色々と知っているからこそ「これはこうだよ」「それはこういうことだよ」と言えてしまう。大口先生のお月様の例を聞いて、子どもの「追いかけてくる」の感覚がいいなと思った。当たり前になっていることを考える大切さに気付いた。（例えば数学の話で、公式などを学ぶ時、なんでそうなるのかを考えるのが面白い。）

## 【唐澤正吉先生より】

○レポートについて、「考察」という言葉が使われているが、正しくは「考究」であって、考察とは少し意味が違う。ここでは「考究」という言葉を使っていくと良い。

○大口先生が、哲学が楽しいと言ってくれること、哲学対話の実践をしてくれていることを嬉しく思う。

○大口先生が前回出てきた「純粋経験」とつなげて考えていて、これは根本をとらえていて見事である。

○大口先生が「日々の生活、教育活動は哲学かもしれない」と言ったが、その通りである。

人生は哲学だと西田は考えた。市井の哲学を目指した西田だが、西田の哲学は戦後価値観が変わったところで求められていく。「私」が感じるというのは西洋の考え方。反対に、世界が人間に何かを感じさせるのだという考え方に導いてくれているのが西田。主客未分なのが西田哲学である。

○真実在は活動である。今回はそこを明らかにしていく。

○脳は意識の一事実。脳が意識のもとではなく、脳はもう意識の中にある。

個人があって意識があるのではなく、意識があって個人がある。これは世界とは逆の考え方。

○すべては純粋経験。この純粋経験とは赤子のような状態で、これを意識することで思惟や意志に変わる。

○すべての経験が純粋経験と言ってよい。私たちの感覚が研ぎ澄まされていないから、これは純粋経験だと気付かないだけ。純粋経験とは何か、これからまた考えていってほしい。